

SSH活動報告

SSHクラス3年生が外部の発表会に参加

大学院総合理工学研究科総合理工学専攻(博士課程) 中間発表会(11月10日/湘南キャンパス) 3年10組 小出 亜実

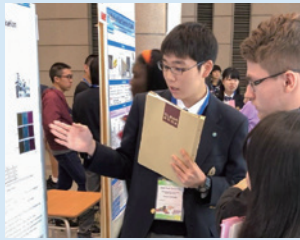


11月10日、課題研究で約2年かけて行った研究を英語で発表しました。英語で口頭発表を行ったのは初めてで、とても緊張しました。日本語の原稿を英訳したり、英語のパワーポイントを作ったりするのが大変でした。大学院生や留学生の方々のお話は非常に高度であったため、理解できない部分も多々ありましたが、パワーポイントやポスターの作り方に関しては参考になる部分がたくさんありました。大学の先生方からいただいたアドバイスや見て盗んだことは、これからの研究発表に生かしたいと思います。

英語での発表は不自由を感じることもあり、始まるまでは不安でいっぱいでしたが、終わってみると解放感でいっぱい、参加することができてよかったと思いました。発表会後には交流会という名のお昼ご飯タイムがありました。たくさんの種類の料理はどれもおいしく、これも来てよかったと感じた要因の一つです。

Japan Super Science Fair 2018(11月17日/滋賀県草津市)

3年10組 篠田 賢



私は今回、京都で行われた「Japan Super Science Fair」に参加してきました。今回の発表会では海外からの参加者も多くいる国際的な発表会だったため、会話や発表はすべて英語で行われました。ポスター発表では、英語で質問されたときにスムーズに答えることができたのでよかったと思います。グループを組んで行われた科学アクティビティは、与えられた課題に対してグループのメンバーと協力して作業をするというものでした。自分の知っている単語を使って会話をするのはとても難しかったのですが、外国人とコミュニケーションを取る良い機会になりました。このアクティビティで自分が言いたいことを英語で伝えるということの大変さを改めて実感しました。

この発表会を通して、自分の英語は話したり聞いたりする力がまだ足りないということを痛感しました。今後も、英語を話す力と聞く力を身につけるために努力していきたいです。

港区立高輪台小学校で出張科学講座を開催(11月21日)

2年10組 石川 伸之介



「頭が良い人」というのは、他人に対して上手に教えることができる人だと思う。僕がこのように感じたのは、このイベントで小学生に教えることにとっても苦労したからである。

僕は、同学年の生徒と同じくらい理科の知識を持っているつもりだ。しかし、いくら頭の中に知識があってもそれを小学生相手に教えるとなると話は別で、「自分自身がわかる」言葉ではなく、「誰でもわかる」言葉で教えるなくてはならない。これが意外と難しい。小学生相手なのでレベルがつかみにくく上に、相手の学年はバラバラで、その全員に正しく伝えるとなるとどのような言葉を使えばよいかわからなくなってしまうのだ。これを達成するには知識以外に豊富な語彙力と相手のレベルに合わせる能力が必要で、それを持っている人が「頭の良い人」だと思う。以上の理由から上記の結論に至った。僕も、今回はうまく教えることができなかったが、今後もこのような機会があれば積極的に参加して、「頭の良い人」になれるように頑張っていきたい。

SSH活動速報

12月 1日～ サイエンス基礎

12月 4日 高校現代文明論

12月 4日～ 特別講座

12月 5日～ アカデミックプレゼンテーションI

12月 8日 サイエンス基礎

12月 11日 高校現代文明論

12月 18日～ 高校現代文明論

12月 18日 公共科学論

12月 19日 高校現代文明論

12月 21日～ 公共科学論

Gary Vierheller先生((有) インスパイア) 他1名による英語プレゼンテーションの開始(全4回)

「現代文明の諸問題を考える」ワークショップ編の実施

唐澤あゆみ先生(グローバル推進本部グローバル推進室) によるオリンピック教育(8組)

サイエンスコミュニケーター活動、出前授業、施設訪問の開始(詳細は下欄を参照)

CLILによるScienceに関する英語での発表の開始(全9回)

神奈川県相模原市でのフィールドワーク(毎木調査、測量、間伐)

「忠臣蔵の真実」の鑑賞

考えるための技術(ディベート編)の開始(全6回)

国語科教員によるユニット授業「科学と想像力と公共」の実施

学年発表会の実施

保健体育科教員によるユニット授業「科学と生命と公共」の開始(全3回)

講座 Information 「特別講座」(3年全クラス)

3年生は卒業試験以降の約7週間にわたって、進学先に応じて編成された新クラス(SSHクラスを除く)で、カリキュラムの枠を超えた専門的な内容を学習する「特別講座」を受講します。第一線で活躍されているの方々による講義や外部施設の訪問、大学での実習などもあり、今までとは一味も二味も違う学びを体験することができます。写真はアリーナで行われた武村勇二先生(「マイナビ進学」編集長)によるワークショップのスライドです。卒業後を見据えた上で、改めて社会人として求められる資質・能力について意見を交換しました。

SSHクラスでは、小・中学生に科学の面白さを伝える出張科学教室の準備も始まりました。例年、「身近なものを題材に実験してくれたので、理科のことがとてもよくわかった」「ゲーム風のストーリーや劇もあって、笑いがいっぱいの楽しい授業だった」など、児童・生徒に大好評の行事です。当日の様子は本誌でも紹介しますので、お楽しみに。

